

Title	編集後記
Sub Title	
Author	法学研究編集委員会(Hogaku kenkyu henshu iinkai)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1978
Jtitle	法學研究：法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.51, No.5 (1978. 5) ,p.343- 343
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	中村菊男先生追悼論文集
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19780515-0343">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19780515-0343</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 編集後記

中村菊男先生は、私たちに唐突の感を残しながら去つてゆかれた。その三日前の、塾監局の一室における会議で、それまでになく明るく発言されていた先生のお姿は、私たちの脳裡にまでも鮮やかに焼きついている。昨年五月のことであつた。それから、すでに一年が過ぎようとしている。

先生のひととなりと業績については、すでに第五十巻第八号の追悼記事に述べられている。くり返しを辞さず、先生もお望みのことと勝手にきめこんで記せば、先生の志向されたのは、日本の実際政治——日本というくにのあり様と、それを形づくりに動かしている政府・民間の個人・集団の活動——に即し、かつそれに働きかけることのできる論究であつた。このような研究上の姿勢は、きわめて多彩な発展をみせている今日の日本の政治学界にとつて、それだからこそむしろ真剣に検討すべきゆき方とはいえないであらうか。

先生は、その実際政治に密着した視点から、広く政治と政治学を論じ、歴大な量の著作・論文を残された。それらの書物や論文に接し、先生の「政治学」「政治心理学」「日本政治史」「研究会」などの講義を受講したのち、本塾法学部で研究を続けることになつたもの、他大学で教鞭をとるようになったものも多い。それらの人びとのなかから、ここに十一の論文が集まつた。寄稿を望みながら、都合により、それを断念せざるをえなかつたものもいく人かあつた。この追悼号が、先生の一回想に合せて上梓できることを喜ぶとともに、御協力下さつた執筆者の方々にふかく感謝の意を表したいと思う。

この追悼号は、私たち後進のものが、中村先生の学恩に報いることを誓うひとつの証しである。この論文集を先生の霊前に捧げつつ、先生の御霊の安らかならんことをお祈りする。

### 法学研究編集委員会